



人文学 *Café*

第6回



その言い方が人を怒らせる
—一文脈を科学する—
加藤 重広 (北大文学部)

まず最初に

- 今日は怒りに来たわけではありません。
- ある種の表現が、話し手が意識していないのに聞き手の気分を害することがある。
 - ←その理由を科学的に説明する(語用論)
- ことばの使い方のちょっとしたずれが重大な結果に結びついてしまう。
 - ←「なんとなく変だ」「なんか嫌だ」に、説明可能な理由があることを解き明かしたい。

本日の話のみちすじ

1. 気に障る言い方

1-1 気に障るのになぜ使う？

1-2 何がずれているのか？

2. 実例の検証から

2-1 曲者のタ

2-2 最近の実例を分析してみる

3. 日本語が気にすること

4. 文脈の科学としての語用論

1. 気に障る言い方

- 言っている内容(情報)は不快でないのに、言い表し方や表現の選択が原因で聞き手を不快にさせたり、怒らせたりすることがある。
- 多くの場合、話し手は気に障る言い方だという自覚がない。
- どんな言い方が他人を不快にさせるかについては、人によって感じ方に違いがあるが、不快にさせる理由は説明可能。

1-1 何が気に障るか

【初対面の人に】「ほら、私って紅茶大
好きな人じゃないですか」


←（聞き手からすると）「そんなこと知らないよ」
「厚かましいなあ、この人」


しかし、「～じゃないですか」を使う人はいる。
「～じゃないですか」そのものが間違った表現
ではない。

どの程度使われているか

- 「寝る前に歯を磨きます。その時に・・・」を「磨くじゃないですか」と言うか？

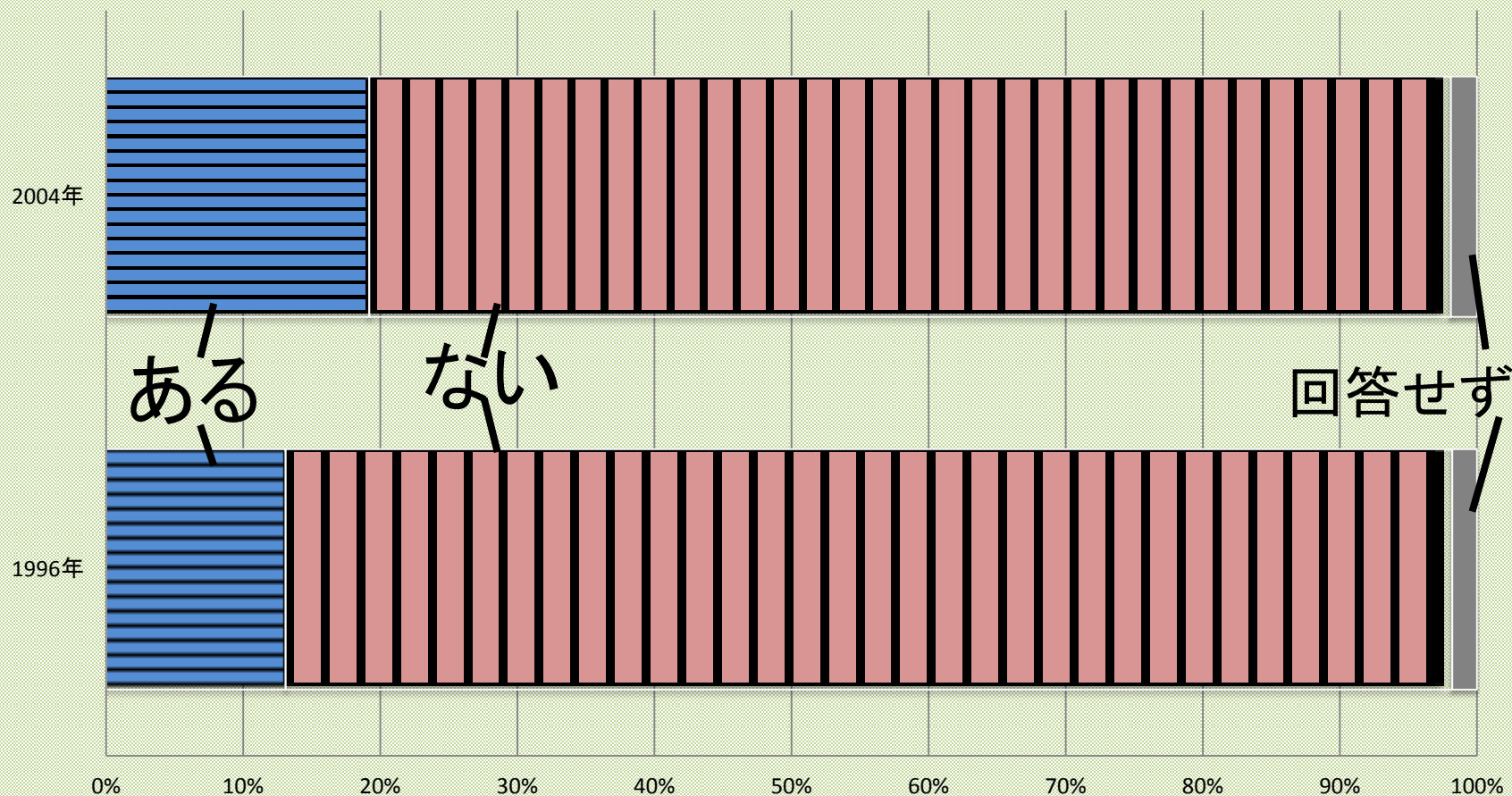
(1996年→2004年)

【言うことがある：】

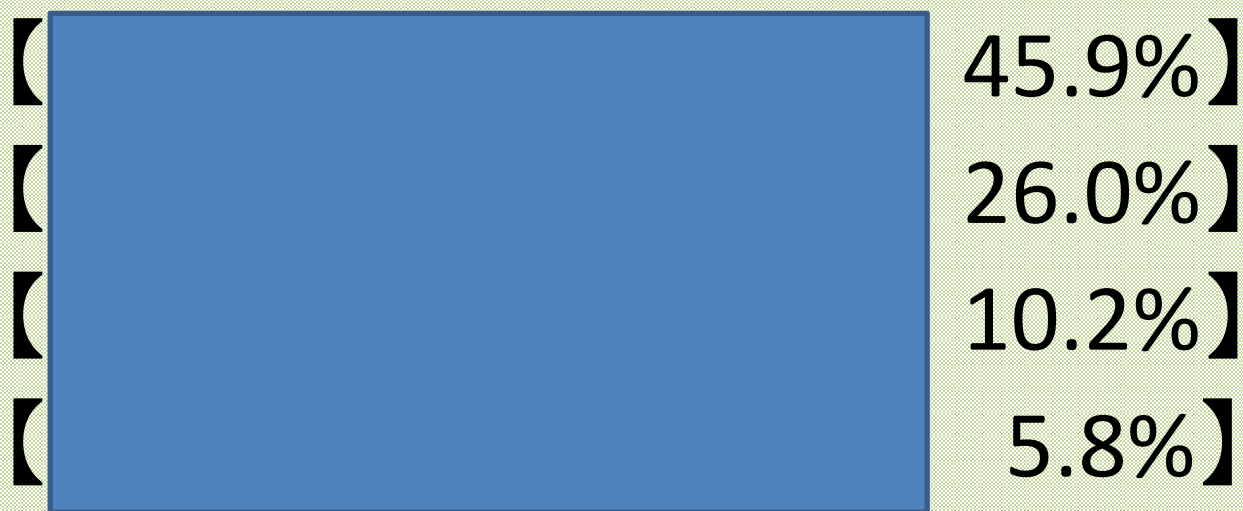
【言うことはない：】

文化庁「国語に関する世論調査」のデータによる

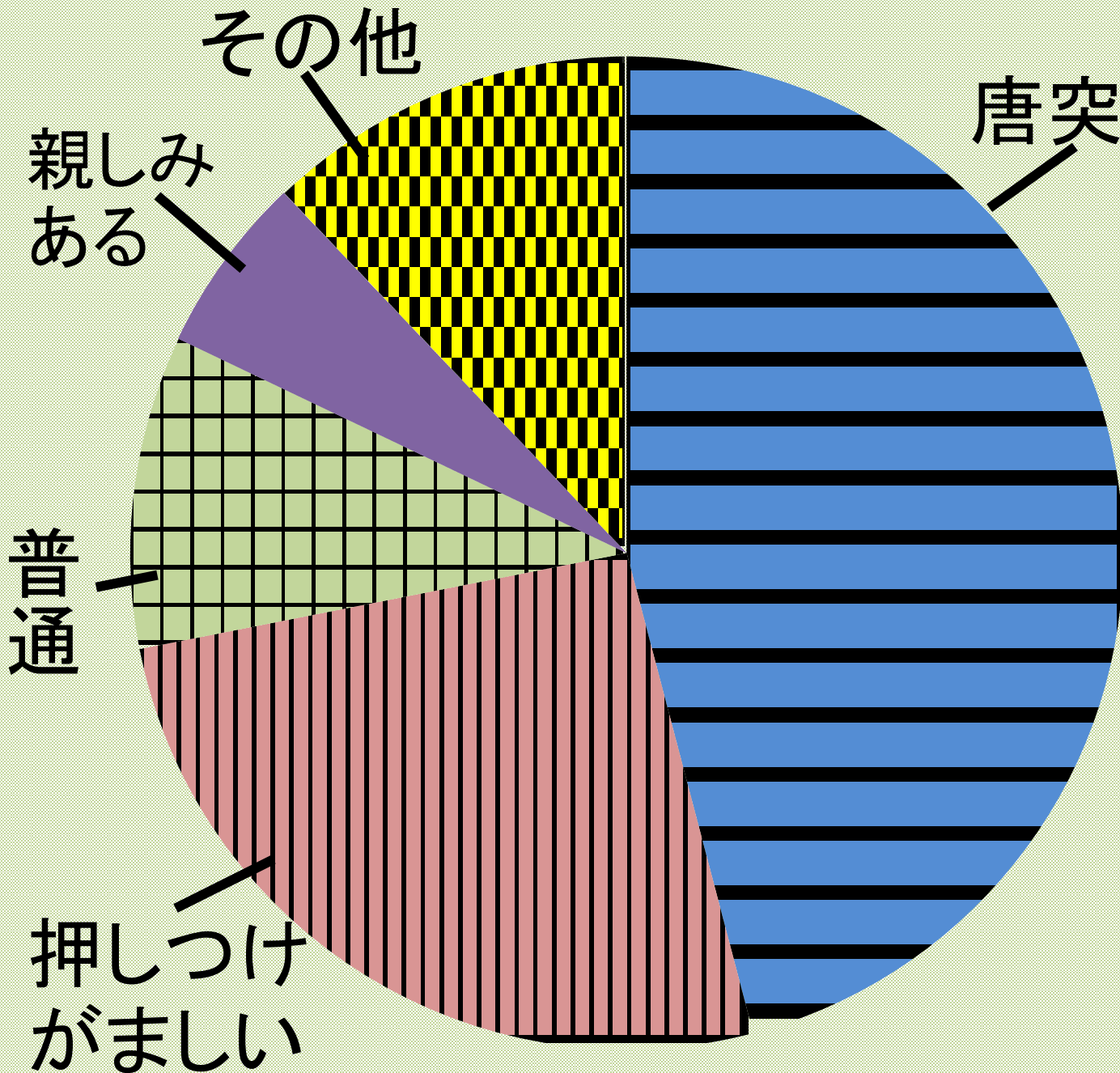
「～じゃないですか」と言うことがあるか？



- 【初対面の人に】「私ってコーヒーが好きじゃないですか。」をどう感じるか？（1997年調査）




文化庁「国語に関する世論調査」のデータによる



文化庁「国語に関する世論調査」の データから(2)

- 「私って甘いものが好きなんですよ」を「甘いものが好きな人なんですよ」と言うか？(2001年調査)

【言うことがある：】

【言うことはない：】

→ただし、十代後半女性では18.8%が言うことがあると回答。十代後半男性では15.6%で、二十代女性では13.7%が言うことがあると回答。

1-2 なぜ聞き手の気に障るか

「私って紅茶大好き人間じゃないですか」

←「じゃないですか」は強い確認要求表現で、聞き手は明確に同意を表明する義務がある。疑念や理由があれば反論は可能だが・・・。

←小道具「私って」「～大好き人間／～な人」を使った《私語り》も、興味があればよいが・・・。

なぜ話し手は使うのか

- まず、基本的に「わざと不適切な表現を使う人、わざと間違える人はいない。わざと相手を不愉快にさせようとする人もいない」ということ。使う側にはそれなりの理由がある。

「私って紅茶大好き人間じゃないですか」

→話し手は聞き手に共感を求めている。聞き手が積極的に参加することで会話を盛り上げたい。

ずれていること

- 話し手は、「共感してほしい」「関心を持ってほしい」「盛り上げてほしい」という情緒的な面を重視している

→ 気持ち・パトス重視

- 聞き手は、「同意しようにも知らない情報である」という内容面に関すること、論理的な面を重視している

→ 論理・ロジック(ロゴス)重視

2. 実例の検証から

コミュニケーション不全 (dyscommunication) は常に起きている。

←気にするまでもない、無視してよい程度であることが多い。

→ある種の条件がそろると、無視できなくなる。

2-1 曲者の夕

- 【喫茶店にて】「コーヒー, 1つ」「ご注文は以上でよろしかったでしょうか」
- 【ホテルのフロントにて】「宿泊の予約を入れてあるのですが, 加藤と申します」「ご予約を承っております。本日, シングルを一泊でよろしかったでしょうか」
- 【友達に】「加藤君, 確か, 弟が一人いたよね？」 ← **思い出しの夕**

【喫茶店にて】「コーヒー, 1つ」「ご注文は以上でよろしかったでしょうか」

← 思い出しているわけではない(ロゴスとしては不適切)。

← 予約確認など既に客として受け入れた扱いをする丁寧な印象を伴う。丁寧な印象を出したいというパトス。

cf. 「どうも, 加藤でした」(北海道弁)

2-2 実例の検証

「あれが欲しいこれが欲しいはだめだぞ、知恵を出せということだ。知恵を出したところは助け、出さないやつは助けない。それぐらいの気持ちを持って。」

「政府に甘えるところは甘えていい。こっちも突き放すところは突き放す。そのぐらいの覚悟でやっていこう。県で(漁港再編問題の)コンセンサスを得ろよ。そうしないとわれわれは何もしないぞ。ちゃんとやれ。」



- 「言葉足らずだったり、私は九州の人間ですけど、ちょっと語気が荒かったりして、結果として被災者の皆さんを傷つけたということであればおわび申し上げたい。」
- 「私はちょっとB型で短絡的なところがあって、私の本意が伝わらない部分があることはさっき女房からも電話がありましたし、反省しなければならぬと思っています。」

- ① 叙述文でなく命令表現を使う。

「コンセンサスを得ろ」←「コンセンサスを得ることが必要だ」「コンセンサスがないと進められない」

- ② 従属節より主節に焦点が当たる

「知恵を出したところは助け、出さないやつは助けない」←「知恵を出さないやつは助けないが、知恵を出したところは助ける」

人は背後のパトスに反応する

- 「私は九州の人間ですけん」「私はちょっとB型で短絡的なところがあって」 → 「私はこのまま変わらない。悪い人間じゃないのでこのまま受け入れてほしい」 ← 反省するなら改めるべき
- 「私の本意が伝わらない部分があることはさっき女房からも電話がありましたし、反省しなければならない・・・」 → 「妻にも小言を言われた。人として弱い部分も語っている」 ← 公私混同。公的場面であることを踏まえていない。

科学的に文脈を捉える必要

- 語用論(pragmatics)という言語学の新しい分野→ことばそのものよりも, ことばの実際の運用を分析対象とする。
- 言語(言語共同体)によって, 運用のくせや好み, こだわりの違いが見られる。また, 言語運用の好みは, 時代とともに変化していくものでもある。

3 日本語が気にすること

- 私はうれしい。
- ?太郎はうれしい。
- 太郎はうれしそうだ。/太郎はうれしいそうだ。
- 太郎はうれしいんだ(, きっと)。

私は「私」の気持ちはわかるが、「太郎」の気持ちはわからない(本人に教えてもらうか、推測するしかない)。

- ?先生, コーヒーをお飲みになりたいですか?
- *Would you like coffee?*
- 先生, コーヒー, どうですか(お飲みになりますか)?
- ?どうぞお召し上がり下さい。こちらは大変おいしいお料理でございます。

←気持ちは当人しかわからない。他人の気持ちを語ることは一種の越権行為。

日本語のこだわり

- 上から目線→「語ってよい資格・立場」にこだわる
- タメ口, タメ語→文体選択は, 上下関係があるか, 同列関係かによる
- 謙抑→自慢に聞こえることは敬遠される。「私語り」は謙抑に引っかかる可能性がある。

配慮の実現

- 「この書類, 明日までに提出して下さい」
- 「この書類, できれば明日までに提出して下さい」
- 「この書類, できれば明日までに提出してもら
えると助かるんだけど」

➔ 場合分けして要求を緩和。自己受益表現化。
(相手に自由・判断の余地を与える)

言いさしの語尾で相手に判断をゆだねる。

4 文脈の科学としての語用論

- 発話には、個々の文脈ごとに解釈されるべき意味(→推意)がある。
- 話し手の意図と聞き手の解釈がずれることもある。
- 分析するための理論として、言語学のなかに語用論(pragmatics)がある。

- ことばの運用にかかわる普遍的な面もあるが、個々のことばや文化によって異なる面もある。
cf. 「あら、どちらまで？」 「ちょっと、そこまで」
- 現在の語用論は、ロゴスに傾いた分析をしている。パトスも考慮に入れた「人間的な語用論」を目指したい。

ありがとうございました。

第1部「トーク」は以上で終わりです。

第2部は「会場からの質問と対話」です。

休憩のあいだに質問をお書きください。



人文学 *Café*

第6回

その言い方が人を怒らせる
—文脈を科学する—

加藤 重広 (北大文学部)

第2部「会場からの質問と対話」